



2021年8月4日

各位

会社名 ヤマハ株式会社  
代表者名 代表執行役社長 中田 卓也  
(コード番号 7951 東証第1部)  
問合せ先 コーポレート・コミュニケーション部長 杉山 啓子  
(TEL 053-460-2210)

## 2022年3月期 第1四半期業績の概要と通期業績予想について[IFRS]

### □ 第1四半期業績の概要 — 全ての事業で大幅な増収・増益 —

新型コロナウイルス感染拡大による影響からの回復が進んだ2022年3月期 第1四半期の売上収益は、前年同期に対し307億円(42.7%)増加の1,025億円となりました。事業利益は、売上収益の大幅な増加により前年同期に対し122億円増加(前年同期は11億円の利益)の134億円となりました。また、親会社の所有者に帰属する四半期利益は、前年同期に対し152億円増加の134億円(前年同期は18億円の損失)となりました。

### <事業セグメント別の売上収益・損益の状況>

#### ● **楽器事業**

売上収益 686億円(前年同期比 47.0%増) 事業利益 104億円(前年同期比 313.0%増)

全ての商品で増収となり、アコースティックピアノ、電子楽器、ギターは、新型コロナウイルス感染拡大による影響が生じる前の前々年同期との比較でも増収となりました。地域別でも全ての地域で前年に対し増収となりました。

セグメント全体の売上収益は、前年同期に対し219億円の増収となりました。事業利益は、79億円の増益となりました。

#### ● **音響機器事業**

売上収益 245億円(前年同期比 25.3%増) 事業利益 13億円(前年同期は11億円の損失)

オーディオ機器は、商品供給不足などにより北米と国内の販売が前年を下回り減収となりました。業務用音響機器は、需要が回復傾向となり全ての地域で増収となりました。ICT機器は、国内の会議システム需要が継続し増収となりました。

セグメント全体の売上収益は、前年同期に対し49億円の増収となりました。事業利益は、24億円の増益となりました。

#### ● **部品・装置、その他の事業**

売上収益 94億円(前年同期比 67.7%増) 事業利益 17億円(前年同期は3億円の損失)

電子デバイス、自動車用内装部品、FA機器は、いずれも市況の回復により増収となりました。

セグメント全体の売上収益は、前年同期に対し38億円の増収となりました。事業利益は、20億円の増益となりました。

□ 2022年3月期 通期業績予想 — 不透明な先行きを考慮し、前回予想を据え置き —

市況は回復してきておりますが、新型コロナウイルスの感染拡大による影響は依然として不確実性が高く、加えて半導体部品等の調達にも不確実性があるため、2022年3月期の通期業績予想は、5月10日に公表した売上収益4,000億円（前期比7.3%増）、事業利益470億円（前期比15.4%増）、親会社の所有者に帰属する当期利益410億円（前期比54.0%増）を据え置きます。

なお、本予想における想定為替レートは、対USドル105円、対ユーロ125円です。

注1) 事業利益とは、売上総利益から販売費及び一般管理費を控除して算出した日本基準の営業利益に相当するものです。

注2) 文章中の売上収益、損益の数値は、原則として億円未満四捨五入で記載しております。

以上

## (1) 主要財務指標

	前期第1四半期実績 (20/4月-6月)	第1四半期実績 (21/4月-6月)	前期実績	当期予想 <sup>(*)</sup>	前当期予想 (21/5/10発表)
	21年3月期	22年3月期	21年3月期	22年3月期	22年3月期
売上収益	718億円	1,025億円	3,726億円	4,000億円	4,000億円
うち国内	204億円 (28.4%)	288億円 (28.1%)	1,082億円 (29.0%)	1,140億円 (28.5%)	1,140億円 (28.5%)
うち海外	514億円 (71.6%)	737億円 (71.9%)	2,644億円 (71.0%)	2,860億円 (71.5%)	2,860億円 (71.5%)
事業利益 <sup>(**)</sup>	11億円 (1.6%)	134億円 (13.1%)	407億円 (10.9%)	470億円 (11.8%)	470億円 (11.8%)
営業利益	△15億円 (△2.1%)	183億円 (17.9%)	350億円 (9.4%)	520億円 (13.0%)	520億円 (13.0%)
税引前利益	△17億円 (△2.4%)	187億円 (18.2%)	371億円 (10.0%)	555億円 (13.9%)	555億円 (13.9%)
当期利益 <sup>(***)</sup>	△18億円 (△2.5%)	134億円 (13.1%)	266億円 (7.1%)	410億円 (10.3%)	410億円 (10.3%)
為替レート(決済レート) <sup>(***)</sup>	108円/US\$ 121円/EUR	110円/US\$ 127円/EUR	106円/US\$ 121円/EUR	105円/US\$ 125円/EUR	105円/US\$ 125円/EUR
ROE <sup>(***)</sup>	△2.2%	13.2%	7.4%	10.0%	10.0%
ROA <sup>(***)</sup>	△1.5%	9.5%	5.2%	7.2%	7.2%
1株当たり利益	△10.3円	76.3円	151.4円	233.2円	233.2円
設備投資額 (減価償却費)	31億円 (28億円)	23億円 (29億円)	113億円 (114億円)	182億円 (130億円)	182億円 (130億円)
研究開発費	61億円	60億円	242億円	253億円	253億円
(キャッシュフロー)					
営業活動	△14億円	127億円	582億円	470億円	470億円
投資活動	21億円	52億円	△58億円	△100億円	△100億円
フリーキャッシュフロー	6億円	179億円	524億円	370億円	370億円
期末在庫高	1,008億円	974億円	968億円	1,010億円	1,010億円
(要員数)					
国内	5,792人	5,745人	5,672人	5,700人	5,700人
海外	14,431人	14,399人	14,349人	14,600人	14,600人
正社員計 <sup>(***)</sup>	20,223人	20,144人	20,021人	20,300人	20,300人
正社員外要員(期中平均)	7,672人	9,091人	8,644人	8,400人	8,400人
(事業別売上収益)					
楽器	466億円 (65.0%)	686億円 (66.9%)	2,390億円 (64.1%)	2,580億円 (64.5%)	2,580億円 (64.5%)
音響機器	195億円 (27.2%)	245億円 (23.9%)	1,038億円 (27.9%)	1,080億円 (27.0%)	1,080億円 (27.0%)
その他	56億円 (7.8%)	94億円 (9.2%)	298億円 (8.0%)	340億円 (8.5%)	340億円 (8.5%)
(事業別事業利益 <sup>(***)</sup> )					
楽器	25億円	104億円	324億円	365億円	365億円
音響機器	△11億円	13億円	71億円	80億円	80億円
その他	△3億円	17億円	12億円	25億円	25億円

## (2) 売上収益の内訳(事業別、地域別)

22年3月期 第1四半期累計実績 (21/4月-6月)	楽器		音響機器		その他		合計	
	売上収益	前期比 <sup>(**)</sup>	売上収益	前期比 <sup>(**)</sup>	売上収益	前期比 <sup>(**)</sup>	売上収益	前期比 <sup>(**)</sup>
日本	167億円	158%	70億円	117%	51億円	132%	288億円	141%
北米	133億円	123%	51億円	94%	16億円	252%	200億円	119%
欧州	126億円	126%	69億円	132%	2億円	218%	196億円	128%
中国	145億円	137%	20億円	124% (126%)	9億円	297%	174億円	140%
その他	114億円	152%	36億円	148%	16億円	222%	167億円	156%
合計	686億円	139%	245億円	119% (119%)	94億円	167%	1,025億円	135%

\*1 通期予想は前回(2021年5月10日発表)から変更なし

\*2 事業利益とは、売上総利益から販売費及び一般管理費を控除して算出した日本基準の営業利益に相当するものです。

\*3 当期利益=親会社の所有者に帰属する当期(四半期)利益

\*4 為替レートは、利益に影響を及ぼすヤマハの輸出入決済レートを記載しています。

\*5.6 ROE・ROAIは年換算値

\*7 要員数=期末社員在籍数

\*8 前期比は為替を除いた実質ベースでの比較、()内はOEM向けを除いた前期比増減を表しています。

連結業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の連結業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。